



第1回全国特別支援学校フットサル大会 記念誌

一般財団法人日本ライオンズ主催

第1回全国特別支援学校フットサル大会



一般財団法人 日本ライオンズ
〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目2-4 八重洲ノリオビル5階
TEL.03-6262-6108

一般財団法人日本ライオンズ主催

第1回全国特別支援学校 フットサル大会



RESPECT

全国特別支援学校フットサル大会の基本コンセプト

1 日本ライオンズの基本コンセプト『自立とRESPECT』への願い

○自立への願い

日本ライオンズは、特別支援学校の生徒の多くが卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるようにと願い、生徒の主眼的判断を尊重する大会を目指します。

このため、通常の競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止しています。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある言葉遣いや行動を期待しています。

○RESPECTへの願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT(他人への思いやり)があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判へのRESPECTを示す大会を目指します。

このため、宿泊するホテルや競技会場での行動を通して、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒、審判、大会関係者などにはRESPECTを表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの礼儀と言葉遣いを期待しています。

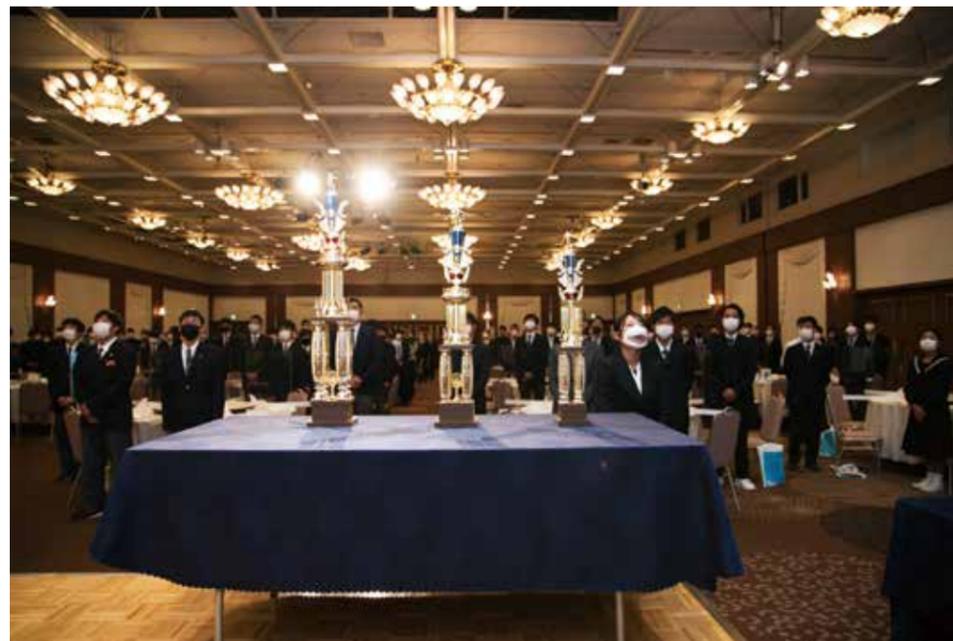
2 大会日程

本大会は、11月第1週土曜日に競技会を開催します。したがって、開会式はその前日の金曜日として、全国10地区の代表校が開催地宿舎に集結します。また、第1回大会から第5回大会の開催地を次として推進します。

区分	開催地	日程	会場
第1回	札幌	2022年11月4日 開会式 11月5日 競技会、表彰式、閉会式	北ガスアリーナ
第2回	福岡	2023年11月3日 開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	アクション福岡
第3回	名古屋	2024年11月1日 開会式 11月2日 競技会、表彰式、閉会式	未定
第4回	東京	2025年10月31日 開会式 11月1日 競技会、表彰式、閉会式	未定
第5回	大阪	2026年11月6日 開会式 11月7日 競技会、表彰式、閉会式	未定

Contents

3	全国特別支援フットサル大会の基本コンセプト
4	あいさつ・祝辞
8	全国大会熱戦譜 プロローグ 成績 なにわ、松江、鹿児島、中札内、名古屋 流山、羽村、香川東部、いしかわ、ゆり
30	開会式・閉会式
34	大会講評
35	地区大会記録
46	編集後記
47	次回大会お知らせ



ごあいさつ



一般財団法人日本ライオンズ
理事長 **不老 安正**

この度、ここに第1回全国特別支援学校フットサル大会の記念誌を、スポーツ庁及び全国支援学校長会をはじめとした関係各位のご尽力により発刊することができ、望外の喜びであります。特に、スポーツ庁室伏長官には、本記念誌へのご祝辞だけでなく、当該大会のご後援を快く頂くなど、衷心より深く御礼を申し上げます。

さて、当財団は、日本国内における青少年の健全育成事業として、特別支援学校の生徒が参加する全国特別支援学校フットサル大会の開催に加えて、児童養護施設の小学生に学習指導をするための学習支援員を派遣する寺子屋事業等を行っています。本大会は、弱視、聴覚障がい、知的障がい、軽度の肢体不自由、発達障がい等の障がいの種類、程度等に分けることがなく、かつ年齢段階も多様な、特別支援学校に学ぶ生徒の全国的なスポーツ大会としては、歴史的にも初めての開催となりました。

おかげさまで、令和4年度第1回大会は、全国10地区に分かれて、70校が参加し開催することができました。本記念誌は、これらの各地区大会をはじめとして、札幌市で開催された全国決勝大会の開会式、競技会、表彰式、閉会式の模様を整理編集したものです。お目通しの上、特別支援学校の生徒へのご理解につながれば幸いです。当法人は、今後もより一層、この大会を通して、生徒の夢と希望を育てたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

祝 辞



スポーツ庁長官
室伏 広治

この度、第1回全国特別支援学校フットサル大会が、北海道札幌市において、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

昨今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、スポーツや、スポーツを通じた交流の機会に制約があることも少なくない中、本大会は、広く全国の特別支援学校生徒が集まり、ともにスポーツを行い、つながりを感じる貴重な機会となりました。この記念誌には、生徒の皆さんの、フットサルへの熱い思いとプレーを通じた感動が詰まっています。改めまして、本大会の開催に御尽力いただいた一般財団法人日本ライオンズの皆様に、心より敬意を表します。

特別支援学校における子供たちのスポーツ環境の充実を図っていくことは極めて重要であり、本大会は、日頃の練習の成果を発表する機会として、大変意義深い取組であると思います。

現在、スポーツ庁では、子供たちの多様なスポーツ機会を確保するため、運動部活動の地域連携・地域移行に向けて取り組んでおります。この栄えある第1回大会開催を契機として、幅広く関係の皆様との連携の下、ますます特別支援学校生徒のスポーツ参画が促進されるとともに、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取組が着実に進んでいくことを強く願っています。

結びに、貴財団のますますの御発展と関係の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

ごあいさつ



全国特別支援学校長会
会長 市川 裕二

第1回全国特別支援学校フットサル大会の開催並びに、記念誌が発行されますことを、心よりお祝い申し上げます。

全国特別支援学校長会は、共生社会の実現や障害のある子供たちの将来が希望にあふれるような社会になることを目指しており、その大きなテーマの一つが、特別支援学校に在籍する児童生徒のスポーツ活動の充実になります。

現在、特別支援学校の児童生徒が活躍できる全国レベルでのスポーツ大会が少ないなか、この度の全国特別支援学校フットサル大会が開催されたことは、全国の特別支援学校に通う児童生徒の励みになるとともに、フットサルに取り組む児童生徒の大きな目標になりうると大きく期待をしております。

今後も、全国特別支援学校フットサル大会が第2回、第3回と続き、ますます発展していくことを祈念してご挨拶とさせていただきます。



全国大会 熱戦譜

「なにわ」が初代王者!!



北海道札幌市の北ガスアリーナ46で2022年11月5日、栄えある第1回大会が開かれた。コロナ禍で1年延期となっていたが、ライオンズクラブや各特別支援学校のたゆまぬ努力と熱意により、念願の開催となった。

本戦は全国10地区を勝ち抜いた精鋭10校がA、Bブロックに分かれリーグ戦を行い各ブロックの同順位同士が順位決定戦を行った。

いずれ劣らぬ熱戦が続き、個人個人を見ると、健常者の強豪チームでも十分にプレーできる力のある選手が散見されたことも驚かされた。

その中で初代王者に輝いたのは、優勝決定戦で鳥根県立松江養護学校乃木校舎を6-2で下した大阪府立なにわ特別支援学校だった。

紙一重の試合も多かったが、レベルが高かったのが、優勝したなにわと松江、そしてBブロック無敗ながら得失点差1で2位となり全体で3位となった鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校だった。

その中でもなにわは、個の能力の高さはもちろん、

戸西寿和監督がフットサルの選手経験が長く、俗にいう「ピボ当て」「ファー詰め」などフットサルの戦術を他校に比べ選手に落とし込めた。またフィクソ(ディフェンダー)にサッカーの知的障がい日本代表の武田稜久選手が構え、守備も安定し、攻撃も、前に蹴るチームが多い中、後ろからつなげていたことが勝因につながった。

また、地元北海道の中札内高等養護学校が、地元の声援を受けて、接戦を勝ち抜き4位と健闘したことも印象的だった。

初めての全国大会を経験したことで、各地区の指導者や選手の皆さんは自分たちのレベルなど改めて感じられたことだろう。また、試合後は友情をはぐむ場面も見られ、かけがえのない経験が得られたことと思う。

次々ページから、開閉会式の様子や各チームの熱戦譜を写真、各校主将、指導者のコメントなどで振り返りたい。

一般財団法人日本ライオンズ 第1回全国特別支援学校フットサル大会予選リーグ結果

Aブロック

	あ 羽村	い 名古屋	う 松江	え ゆり	お 中札内	勝ち点	得失点差	順位
あ 羽村		1 × 3 ① 9:40~	2 × 4 ⑥ 11:20~	3 ○ 1 ⑧ 12:00~	2 × 3 ③ 10:20~	3	-3	4
い 名古屋	3 ○ 1		1 × 3 ④ 10:40~	2 × 0 ⑩ 12:40~	1 × 2 ⑦ 11:40~	6	1	3
う 松江	4 ○ 2	3 ○ 1		6 ○ 1 ② 10:00~	2 △ 2 ⑨ 12:20~	10	9	1
え ゆり	1 × 3	0 × 2	1 × 6		0 × 4 ⑤ 11:00~	0	-13	5
お 中札内	3 ○ 2	2 ○ 1	2 △ 2	4 ○ 0		10	6	2

学校名		
あ	羽村	東京都立羽村特別支援学校
い	名古屋	愛知県立名古屋養護学校
う	松江	鳥根県立松江養護学校乃木校舎
え	ゆり	秋田県立ゆり支援学校
お	中札内	北海道中札内高等支援学校

Bブロック

	か 鹿児島	き 香川	く いしかわ	け なにわ	こ 流山	勝ち点	得失点差
か 鹿児島		5 ○ 0 ① 9:40~	9 ○ 1 ⑥ 11:20~	0 △ 0 ⑧ 12:00~	3 ○ 0 ③ 10:20~	10	16
き 香川	0 × 5		6 ○ 0 ④ 10:40~	0 × 5 ⑩ 12:40~	1 × 3 ⑦ 11:40~	3	-6
く いしかわ	1 × 9	0 × 6		0 × 9 ② 10:00~	1 × 5 ⑨ 12:20~	0	-27
け なにわ	0 △ 0	5 ○ 0	9 ○ 0		3 ○ 0 ⑤ 11:00~	10	17
こ 流山	0 × 3	3 ○ 1	5 ○ 1	0 × 3		6	0

学校名		
か	鹿児島	鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校
き	香川	香川県立香川東部養護学校
く	いしかわ	石川県立いしかわ特別支援学校
け	なにわ	大阪府なにわ高等支援学校
こ	流山	千葉県立特別支援学校流山高等学園

○順位決定戦 13:20~ ※15分1本のランニングタイムで2コートにて行う。(Aコート、Cコート)

	Aコート A5位×B5位	Cコート A4位×B4位
13:20~	ゆり 対 石川 0 対 1	羽村 対 香川 3 対 1
13:40~	A3位×B3位 名古屋 対 流山 3 対 1	A2位×B2位 中札内 対 鹿児島 1 対 7

※順位決定について
同点の場合は両チーム3名によるPK戦により決定。

○決勝戦 14:00~ ※20分ハーフのランニングタイムでBコートにて行う。(10分-5分-10分)

	A1位×B1位
14:00~	松江 対 なにわ 2 対 6



大阪府立なにわ高等支援学校

〒556-0027 大阪府大阪市浪速区木津川2-3-30
全校生徒/141人 部員/12人

戸西寿和監督

『第1回大会で優勝できて光栄です。選手たちが本当に頑張ってくれたの一言に尽きます。どの学校も強くて、優勝できたのは紙一重の差で、たまたまうちが勝ただけだと思います。今大会を目指すにあたり、フットサルに慣れてもらうことから始めました。僕自身が関西リーグなどでフットサルの選手経験が20年ありますので、『ピヴォ当て』という戦術にこだわりながら、色々と選手に理解してもらいながら、それが結果的に選手が力を発揮してくれたと思います。週に3、4回の練習ですが良くついてきてくれたと思います。フィクソで10番の武田選手が

知的障害者サッカーの日本代表なのですが彼を中心につなぐことができたと思っています。大屋主将も高校からサッカーを始めたのですが、素晴らしい力を持っていますし、フットサルの代表候補に推薦したいと思っています。初めてのフットサル全国大会で、雰囲気は最高でした。これを目標に選手たちも練習はもちろん学校生活から意識が変わって成長しましたので、感謝しかありません。うちの選手も他校の選手と交流していましたし、笑顔や楽しさを忘れずにやってくれたともいます』



大屋煎主将

『リーグ初戦から、先生から『1試合でもまけたら敗退だと思っけ』と言われて、勝つ気持ちでいきました。自分としても最初から得点に絡めました。関西でも得点王にもなりましたが、仲間のおかげで今回も得点を取れました。3試合目の鹿児島戦が0-0と一番苦戦しましたし、一番熱い試合でした。とにかく守って守ってという感じで。その試合のあと、最低5点取らないと得失点差で逆転できない状況で、焦りましたが僕が4点取って何とか決勝にいけました。決勝はここまできたら全力で楽し

くやろうと思いました。前半は接戦だったのですが、後半はチーム全体で得点を取りにいき勝ったという感じで、すごくうれしく思います。とにかく優勝できてよかったです。先生がフットサルの経験者でセットプレーなどの方法を叩き込まれました。勝っても負けても最後は握手して終わろうと思っていましたし、勝ちには来てはいたけど、フェアプレーを意識して戦いましたし、他チームの選手と交流できた良かったと思います。



個の力と戦術浸透度で頂点に





島根県立松江養護学校乃木校舎

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町733-2
全校生徒／83人 部員／8人

木次雄作総括責任者

『今回、北海道でこのような大会を開催していただき、とてもありがたく思っております。生徒たちも全国大会に向け目標ができ、中国地区微ロック代表ということで、自分たちが背負うものを感じ取ることができとても良かったです。サッカーだけでなく学校生活の中でも頑張ろうという気持ちもできていますし、指導者もそのように声掛けができていて、それに対して、子供たちが応えてくれることがとてもうれしく、大会に向けて、そして大会期間中にもすごく成長する姿を見せてくれました。』

2位という結果は励みになって、サッカー部の子供たちもコロナ禍で大会が中止になる中、目標が持てませんでしたが、すごくありがたく感じています。島根県も2030

年の全国障がい者スポーツ大会に向け、これから少しずつ強化を初めていく段階で、今大会の高校生たちが将来、県の代表となって全国大会で活躍してくれることをすごく期待しています。私も島根県の代表監督もしておりますので、この高校生が大会を通じて、代表になりたいと思えばサッカーを続けてくれると大変ありがたいと思います。試合内容も自分たちがやってきたことが全国で通じたことが本当にうれしくて、個々の選手の特徴を十分に感じる事ができました。本当に生徒たちが頑張ってくれました。これが普通のサッカーにも生かせればと思っています』



坂田琉星主将

『準優勝という結果は部員が少なく、コロナ禍で練習が限られていましたが、初めての全国大会でこの結果は良かったと思います。できれば1位になりたかたですが、2位でも満足していますし、この大会があってとても良かったと思います。ここまで、チーム皆で励ましあいながら切り替えを大事にして、とりあえず1勝を目標に日々、』

練習してきて、最後はみんな一丸となってプレーできたので良かったです。次は優勝という目標ができましたし、次回の優勝を後輩に託したいと思います。フットサルの全国大会出場は初めてだったので最初は緊張しましたが、自分たちのプレーができたと思います』



抜群のチームワークで快進撃





鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校

〒892-0861 鹿児島県鹿児島市東坂元3丁目28-1
全校生徒／89人 部員／14人

坂元暢泰監督

『得失点差1点で決勝に進めませんでした。スロースターターで初戦の失点が多いチームなのですが、今回は生徒たちが集中して冷静に失点せず戦えたことは良かった点です。逆にそれで気が抜けてしまった分、いしかわ戦で1失点してしまったことが課題として残りました。鹿児島に帰ると、『もうひとつの選手権』というサッカーの九州地区予選があるので、それに向かって生徒たちは切り替えていると思います。今大会に向け、フットサルの経験がない生徒が多いので、ルールや動きが難し

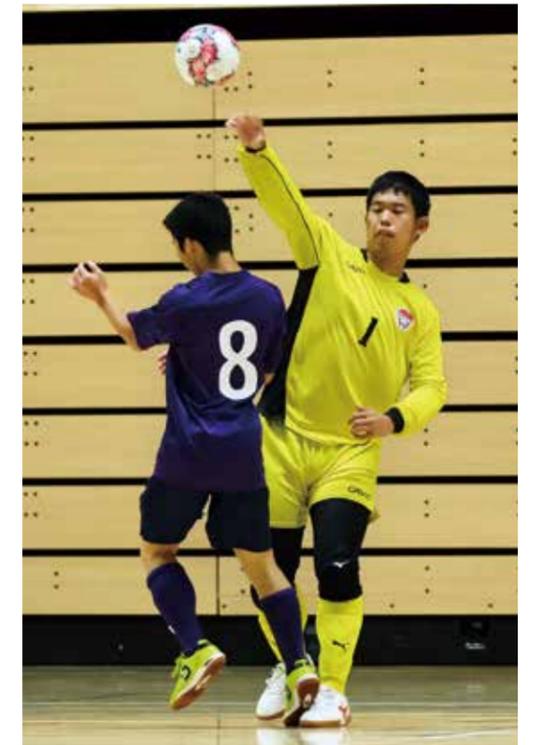
かった生徒たちが練習を重ねるたびにできるようになっていたり、普段は気持ちを伝えられない選手も含め、みんなが意見を言い合える環境になっていったことは良かったと思います。次回、優勝を目指すにはもう少しフットサルの戦い方を教える必要があるかもしれません。私はサッカー経験がないので、鹿児島県知的障害者サッカー連盟の古蘭功詞郎さんにご指導いただいたことは感謝しています。彼の指導を受けて無敗ですから』



下鶴掛夢主将

『得失点差1で決勝進出を逃し3位という結果でしたが、まず1失点したのは自分たちの課題で、優勝を目指していたのは非常に悔しかったです。知的障害者サッカー日本代表の武田稜久君(なにわ10番)とは鹿児島で1回一緒に試合をやって仲良くなったので、試合するのを楽しみしていました(下鶴主将は代表候補に1度選出)。意識はしていましたし、実際試合をして日

本代表だし上手くて、落ち着きがあるな、と改めて思いました。チーム全体としては、やはり1失点さえなければ全試合クリーンシートだったし、決勝へ行けたので残念です。もっとシュートも打てたし、決定力も足りませんでした。でも、楽しかったし緊張もしましたが、お互いに声をかけあって戦えたと思います。



得失点差1の悔しさを来季に





北海道中札内高等養護学校

〒089-1345 北海道河西郡中札内村東5条1-8
全校生徒/122人 部員/7人

成田憲昭監督

『本当に生徒が一生懸命、最後まであきらめないで皆で声を掛け合いながらプレーをしてくれて15分間の5試合というきつい中でも最後まで中札内らしく、チームワーク良く戦ってくれたので、よくやってくれたと思います。接戦が多かったですが粘り強さは日ごろの練習で培ったものだと思いますので、大事な場面で生徒が自分たちで考えて状況判断してプレーしてくれて気持ちを切りさずやってくれました。3位決定戦は1-7で大差になりましたが最後の最後で来年度につながる1点を決めてくれたので、それが何よりも次へのスタートになると思いま

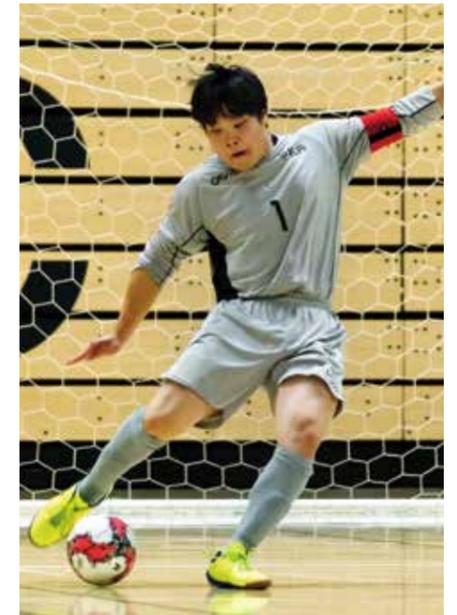
す。全国大会を通じて4位から3位を目指す壁の高さも正直感じています。上位のチームはやはり指導者の方もフットサルの戦い方を熟知していたように感じます。今大会までコロナ禍で練習試合もできないなど、できることも限られていた中での活動で何ができるのかを考え、自分たちで考えてプレーすることをテーマにして練習してきました。その部分は生徒たちが実践してくれました。第1回大会で、ホストチームとしての責任もある程度果たせたと思います。選手たちに感謝したいです』



辻愛斗主将

『予選リーグは3試合目まで勝っていたのですが、松江さんとの試合で引き分けてしまって、得失点差で決勝に行けなかったことは、やっぱり悔しいです。内容的には接戦を勝ち抜いていけましたが、もっと自分たちが成長しなければいけないと改めて感じました。上位とは技術面はもちろん、声出しやチームワーク、足元のテ

クニックなどに差を感じました。大会は楽しかったのですが、結果を出せなかったのが悔しい部分が多いです。来年は後輩たちに頑張ってもらいたいという思いです。選手宣誓は緊張しましたが、言いたいことは言えたと思います』



ホストチームの意地見せ4位





愛知県立名古屋聾学校

〒464-0021 愛知県立名古屋市千種区鹿子殿21-1
全校生徒／87人 部員／11人

筒井舞監督

『初めてこのような大会に参加したので、どうなることかと思っていましたが、5位という残念な結果になりましたが生徒は一生懸命、皆で協力しながら本当に頑張ってくれたと思います。第1試合は緊張していたなと感じましたが、10番の加藤選手がゲームの中でもずば抜けて上手い選手で、10月にもろう者のサッカーの全国大会に出場していますので、彼を中心によく戦ってくれました。コロナ禍の中、このような全国各地のチームが

集まって大会を開催できたのはとても良かったと思いますし、自分たちや、ほかのチームの生徒たちの頑張りが、こういう大会があることが目標を持って臨めるので良かったと思います。上位のチームはやっぱり技術はもちろん、パス回しが上手で、フットサルの戦い方を知っていると感じました。うちはサッカー部として活動していて昨年からはフットサルの練習を始めているので経験が不足していたと思います。』



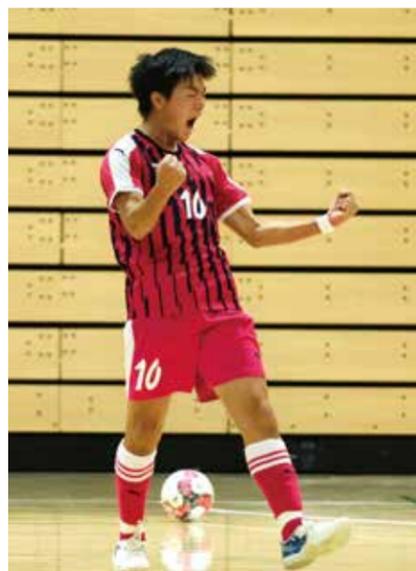
山田朱帆主将

『中等部のころ高等部3年まで試合経験がありませんでした。コロナ禍などでろう者の試合を経験することができなかったです。高2の時に北海道で全国大会があることをとても楽しみにしていました。東海地区で優勝して、次に全国大会の出場を目標に練習して準備してきましたが、結果は残念でした。でも、みんなと一緒に楽しんで試合ができたのは良かったと思います。全

国から集まったチームの試合をして、強いな、と思いました。でも全国に出て経験できたことが良かったと思います。来年度は今のところ学校のサッカー部は廃部の予定です。僕はサッカーのことは何も知らずに部に入って先輩に教えられてサッカーを覚えました。最後に試合に参加できたことはとても楽しかったです。忘れられない思い出になりました』



女子も躍動! ろう学校の雄が5位





千葉県立特別支援学校流山高等学園

本校 〒270-0135 千葉県流山市野々下2丁目496-1
第二キャンパス 〒270-0145 千葉県名都借140 全校生徒/282人 部員/13人

小澤駿一監督

『選手たちは県外での試合がほとんどなかったのですが、とても良い経験になったと思います。最初は緊張していましたが、2、3試合目でようやく落ち着いた感じです。6位という成績でしたが欲を言えばもう少し上位を目指したかったです。しかし、このような経験をさせてもらってもありがたかったです。大会を見て、思った以上にレベルが高いなと感じました。上位チームはフットサルの練

習をされていると思いました。うちもこれから取り入れていきたいです。大会自体は素晴らしいものでした。トロフィーや食事会も用意されて、ハーフタイムショーもあり、企画運営が流石だと思いましたし、ライオンズクラブ様に感謝したいと思います。選手達にとっては修学旅行よりもすごいイベントになったと思います』



福元響毅主将

第1回の全国大会で自分たちの力を発揮できるか楽しみ試合に臨みました。その結果、どこまで通用するかがわかって、これからの全国で勝つための対策や練習の仕方などをイメージできた大会だったので次の大

会を目指し後輩には頑張ってもらいたいです。個人手にもとても楽しい大会でした。やはり上位チームとは技術面やフィジカル面が足りなかったと感じています。とても良い経験になりました。



緊張で6位も楽しさ忘れず





東京都立羽村特別支援学校

〒205-001 東京都羽村市五ノ神319-1
全校生徒／459人 部員／17人

鈴木貴雄監督

関東代表の自覚を持って臨みましたが、全国のレベルを肌で感じられ、また、出直してこようという思いです。この大会を目指して、2度と来られるかわからない気持ちでやろうと、言い聞かして臨み、それなりに対策は積んで、セットプレーの練習もしてきました。しかし、選手たちはどうしても場慣れしていない面があり、力を出し切れない面もあったと思います。経験不足が出て最初の

2戦は足が動いていない部分もあったので、そこを克服できればもう少し良い試合ができると思います。1年生が4人いる若いチームでしたので、今後の伸びしろという点は楽しみです。今大会はすべてが良くて、今までにない経験がつめたので、またぜひ出場したいと思える大会でした。



谷脇大樹主将

結果的に7位でしたが、チーム一丸となって戦った順位だと思うのでとても楽しい全国大会になりました。関東予選に比べたらやはり白熱して、自分の中では勝てるかなと思っていましたがやはり難しい面もありました。相手の情報もない中、お互いが助け合いながら戦えた

とは思いますが。来年もあるということなので、そこは後輩に今年以上の結果を出してくれることを期待したいと思います。人生の中でもなかなか得られない経験ができたと思うので、全国から来た10校の仲間と試合や交流ができてとても楽しく良い1日になったと思います。



若きチームが一丸となり健闘





香川県立香川東部養護学校

〒769-2302 香川県さぬき市長尾西475
全校生徒/147人 部員/17人(男子11人、女子6人)

宮本覚監督

全国大会の壁は高くまだまだ自分たちの力が及んでいないのが良く分かりました。5試合経験させてもらい、その経験を通して一つずつ子供たちが色々なものを身に付けて成長していくのが手に取るように分かりました。最初と最後の試合ではまったく違った様子で試合をできていたのは、この大会の魅力でしょうし、この大会が求めていることが子供たちにも伝わったのだと思います。

大会に向けてとにかく自分たちがフットサルをできること、支えてくれる家族、地域の方々、先生たちに感謝をしましょう。プレーや生活に関してはその都度正しい判断をできる人になりましょう、と言いつづけてきました。

今大会、最小の5人でプレーしたことはきつかったと思いますが、最後まで足が止まることなく、仲間同士で

励ましあったり声を掛け合ったりして、人数のハンディを補う努力をできたことは彼らの成長だと思いますし、彼らの努力のたまものだと思います。点差が開いて勝つことが難しい試合でもあきらめずにボールを追って走ってくれたことは、僕自身、驚きましたし、本人たちは気づいていないかも知れませんが、相手に対するリスペクトや、周囲への感謝という思いを表現できたと思っています。そういう意味でも本当にありがたい大会でしたし、皆また来たいと思っているはずです。

大会で上手いかなかったものや手にできなかったものは、大会でしか取り戻せないの。目標も定まりましたし、上位のチームの戦い方を見て、自分たちはどうしていこうという考えが生まれてくることにより、モチベーションが活性化すると思います。



丸田和也主将

『この大会ではパスを上手につなぐのが難しかったです。全国大会のレベルはやっぱり高かったです。自分としては相手に点を取られてしまっとうまく守れなかったの、守備の面で勉強になりましたし、良い経験になりま

した。大会の雰囲気も良かったですし、ほかの地域の選手とも友達になれましたし、楽しくプレーできましたし、全力は出せました。仲間と一緒にプレーできたこともうれしかったです』



最少5人も足止まらず奮闘





石川県立いしかわ特別支援学校

〒920-3116 石川県金沢市南森本町1-1
全校生徒／439人 部員／12人

原崇史監督

北信越大会を優勝できて、自分たちが強いという思いが生徒たちの中であって、それが崩れたということが、すごく良い刺激になりました。変なプライドを持って練習に臨んでいたのが懸念がありましたが、打ちのめされたことは、逆にすごく実りがあり、一層練習に励んでくれれば良いと思います。コロナ禍で大会が全国はおろか石川県内でもなかったですし、外のレベルが分からない状況で間違った考えになってしまったので、この結果になって、また頑張ろうという気持ちに生徒もなっていて、ありがたい機会でした。決勝を見て、上手いな、とか相

手を称える言葉も生徒から出ていたし、福岡で優勝するぞという気持ちになっていると思います。特に1試合目がなにわさんだったので、洗練した戦い方をしてくて、うちは泥臭さしかないですが、私としても全国レベルを知ることができて勉強になりました。私は審判もしているので、全国大会なども参加する機会もありましたが、初めて監督として経験して、普通ではありえないほど豪華な大会で、金銭面でも負担が少なかったのが、本当にありがたいですし、来年以降も継続してお願いできればと思います。



中嶋健太主将

『このメンバーで出るのは全員初めてで、リーグ戦で5連敗でしたが、順位決定戦で勝てたのは本当にうれしかったですし、良い思い出になりました。全国のチームとの差は感じました。レベルが全然違いました。動きが足りなかったし、声出しも足りなかったですね。1試合目になにわさんと当たって、強いなと感じましたし、個人

能力も高かったんで、あれぐらい自分たちを上手くなりたいと思いました。もっと練習しなければと感じましたし、頑張らなければという気持ちになりました。ただ、今大会はメチャクチャ楽しかったです。出場できて本当に良かったです』



全国レベル実感も貴重な1勝





秋田県立ゆり支援学校

〒015-0085 秋田県由利本荘市水林456-3
全校生徒／113人 部員／11人

石井真監督

10チーム中10位という結果でしたが、まず、秋田の田舎の小さい学校が全国大会に出場できたことが貴重な経験になりました。全国とは素直にレベルが違うなと感じました。特に上位3チームはパス回しからシュート力から、健常者のチームと対戦しても遜色なく戦えると思います。勉強以上というか、驚きしかないというのが率直な感想でした。東北地区大会は出場校が3校でしたので、単独チームで出ると今回のようにレベルの差は否めなかったです。ですが、この大会で子供たちは一生分の

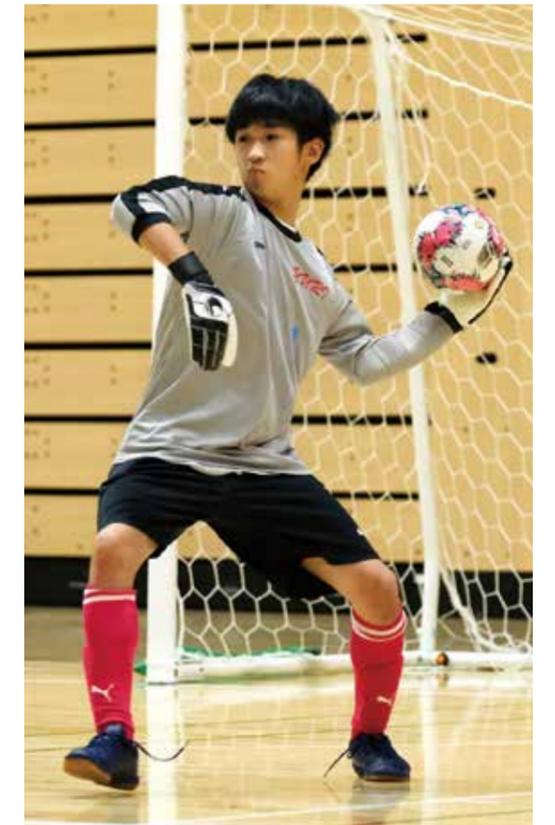
経験をできたと思います。今大会に向け、北海道に行きたいということをモチベーションに頑張ってきました。結果は出なかったですが今大会が最後になる3年生を中心に全力は出せたと思います。悔しさよりも、これだけ上手い選手やチームと戦える喜びがあったように感じています。指導者としても勉強になり、東北全体のレベルの底上げが必要とも思いました。またゼロからのスタートになりますが、新入部員集めが大変ですが、この経験を生かし来年度も出場を目指したいと思います。



土田理久哉主将

大会を振り返って、なかなか得点も取れなかったですが、すごく相手チームの動きとか参考になりましたし、こういう戦術もあるのか、という新しい発見があったので良かったと思っています。特にボールを持っていない時の動き方や、体力面が足りてないと感じました。東北

大会よりレベルが全然高かったです。結果が出なかった悔しさはありますが、全国大会に出場できたという喜びの方が大きかったです。ほかの選手たちとも交流できましたし、仲良くできたのも良い思い出になりました。



小さな学校のかげがえなき経験



開会式

京王プラザホテル札幌



国歌斉唱 高らかに



開会宣言・小野寺眞悟副理事長



大会会長あいさつ・不老安正理事長



祝辞・秋元克広札幌市長



祝辞・小玉俊宏北海道副知事



祝辞・友善学特別支援学校校長会会長

感謝と期待と闘志胸に秘め

選手宣誓

宣誓。多くの方々に支援や応援をしていただいたこと、このような多くの仲間と交流の場を設けていただいたこと、全国各地からここ北海道に来ていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。私たち選手一同は、日頃の練習の成果をプレーで表し、お互いをたたえ、励まし合いながら選手全員で試合に臨みます。記念すべき第一回大会。勝利を目指すだけでなく、思いやりと感謝の気持ちを持ち、みんなが笑顔で終われる大会にすることをここに誓います。 北海道中札内高等養護学校 キャプテン 辻 愛翔



出場校の代表選手が壇上で意気込みを語った。写真は香川東部養護学校の丸田和也主将



予選リーグの組み合わせ抽選会が行われ、緊張した空気が漂う



あいさつした鹿児島の下鶴掛夢主将は11月4日が誕生日。誕生日ソングで祝う微笑ましい場面も



閉会式

京王プラザホテル札幌



不老大会会長から優勝トロフィーを受け取るなにわ高等支援学校の大屋煎主将



準優勝の松江養護学校乃木校舎



心を一つにして



4位の中札内高等養護学校のみなさん



3位の鹿児島高等特別支援学校

友情と歓喜と感動残し閉幕



友情を深め笑顔のなにわ、松江、中札内のみなさん



名古屋聾学校と松江のみなさん



トロフィーを持ち笑顔のなにわのみなさん



来年こそ頑張ろうな



羽村特別支援学校のみなさん

大会講評



エスポラーダ北海道スクールディレクター
競技委員長 吉田 順省

このような特別支援学校の全国大会は初めてだということだったのですが、予想以上のレベルの高さに驚かされました。

特に決勝戦、なにわ高等支援学校と松江養護学校乃木校舎の対戦は非常にレベルが高く、後半は差が開きましたが、前半はとても拮抗した好ゲームだったと思います。

なにわが優勝した要因は、個人の能力の高さとともに、フットサルの戦い方に慣れていたことが挙げられます。「ピヴォ当て」「ファー詰め」などの戦術を実践していて、他チームとは得点の仕方が違いました。専門用語で指示が出ていましたし、相当フットサルの練習をしてきたと感じました。

準優勝の松江は、パワフルなシュートを打つ松田理音選手を中心に、とてもチームワークが良く安定した戦いぶりでした。決勝戦は前半2-3と競り合いましたが、後半序盤にたみかけられてしまいました。もう少し我慢できていれば勝負はわからなかったと思います。

3位の鹿児島高等特別支援学校も技術が高くしっかりしたチームで上位2チームと力差は感じませんでした。鹿児島となにわが入った予選リーグBブロックはレベルが高く、鹿児島は無敗だったのでブロック2位で決勝に進めなかったのは、レギュレーションの妙というしかありません。

4位の中札内高等養護学校はホストチームとして奮闘し、道産子魂を見せてくれました。個の能力は劣っていても、ワンチャンスで得点できるのがフットサルで、しぶとく、上手に勝ち上がったと思います。

選手にフォーカスすると、なにわの10番・武田稔久選手、松江の3番・松田理音選手、鹿児島の5番・下鶴掛夢選手、名古屋聾学校の10番・加藤豪選手は、健常者の強豪チームでも技術的には問題なくプレーできるでしょう。ゴレイロは中札内の辻愛翔選手が安定していました。

フットサルは老若男女、そして障がいを持っていても、誰もが平等に、年間を通じて楽しめるインドアスポーツです。今大会でも名古屋聾学校は女子選手も出場していました。少子化やコロナ禍でアマチュアスポーツ界は厳しい状況におかれています。フットサル普及を通じて健全な社会の実現、健全な青少年の育成に貢献したいと、今大会を通じて改めて強く思わされた次第です。



地区大会 記録

全国大会出場校 &各地区大会出場校

赤字:地区優勝、全国出場校
紺字:地区出場校

北海道地区 北海道中札内高等養護学校

- 北海道帯広養護学校
- 北海道高等聾学校
- 北海道小樽高等支援学校
- 市立札幌みなみの辻高等支援学校
- 北海道千歳高等支援学校
- 北海道札幌あいの里高等支援学校
- 市立札幌豊明高等支援学校
- 北海道白樺高等養護学校
- 北海道新篠津高等養護学校
- 北海道札幌高等養護学校
- 北海道今金高等養護学校
- 北海道伊達高等養護学校
- 北海道函館高等養護学校
- 北海道紋別高等養護学校

東北地区 秋田県立ゆい支援学校

- 秋田県立栗田支援学校
- 青森県立八戸高等支援学校

西関東地区 東京都立羽村特別支援学校

- 東京都立青峰学園
- 東京都立永福学園
- 東京都立南大沢学園
- 東京都立志村学園
- 東京都立府中けやきの森学園
- 横浜市立日野中央高等特別支援学校

北信越地区 石川県立いしかわ特別支援学校

- 富山県立富山高等支援学校
- 石川県立明和特別支援学校
- 石川県立小松特別支援学校

中国地区

島根県立松江養護学校 乃木校舎

- 岡山県立倉敷琴浦養護学校
- 島根県立益田養護学校
- 島根県立松江養護学校川津校舎
- 島根県立松江養護学校安来分教室
- 島根県立出雲養護学校

東関東地区 千葉県立特別支援学校 流山高等学園

- 千葉県立市原特別支援学校つるまの丘分校
- 千葉県立市川大野高等学園
- 茨城県立水戸高等特別支援学校
- 茨城県立日立特別支援学校
- 茨城県立常陸太田特別支援学校
- 茨城県立鹿島特別支援学校

東海地区 愛知県立名古屋聾学校

- 岐阜県立西濃高等特別支援学校
- 岐阜県立清流高等特別支援学校
- 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園
- 愛知県立大府もちのき特別支援学校
- 愛知県立春日井高等特別支援学校

関西地区 大阪府立なにわ高等支援学校

- 大阪府立たまたがわ高等支援学校
- 大阪府立吹田支援学校
- 大阪府立泉北高等支援学校
- 兵庫県立のじく特別支援学校
- 兵庫県立高等特別支援学校
- 兵庫県立東はりま特別支援学校
- 兵庫県立北はりま特別支援学校
- 京都府立城陽支援学校
- 京都府立八幡支援学校
- 京都府立舞鶴支援学校
- 奈良県立高等養護学校
- 奈良県立ろう学校

四国地区 香川県立香川東部養護学校

- 徳島県立みなと高等学園
- 愛媛県立今治特別支援学校

九州地区

鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校

- 大分県立大分支援学校
- 沖縄県立中部農林高等支援学校
- 沖縄県立沖縄高等特別支援学校
- 沖縄県立やえせ高等支援学校
- 沖縄県立宮古特別支援学校

北海道地区

2022年7月29日 北海道立野幌総合運動公園体育館

第6回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会

兼 第1回特別支援学校フットサル大会北海道地区大会 大会結果
大会開催日:2022年7月29日(金) 大会会場:北海道立野幌総合運動公園体育館
大会概況:①各学校選手役員15校 約150名 ②大会役員 約60名 ③観客 約500名
カテゴリー1 出場校 北海道帯広養護学校 優勝
エキシビジョン参加校 北海道高等聾学校(理由:参加申し込みの遅延により)
カテゴリー2 出場校 13校



2022 第6回 小野寺眞悟杯特別支援学校フットサル大会 結果表

Aブロック

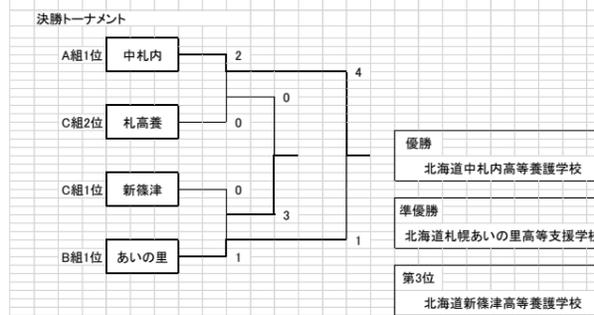
	千歳	今金	中札内	豊明	勝ち点	得失点差	順位
千歳		3 〇 1	0 ● 8	0 ● 5	3	-11	3
今金	1 ● 3		0 ● 5	0 ● 4	0	-11	4
中札内	8 〇 0	5 〇 0		3 〇 1	9	15	1
豊明	5 〇 0	4 〇 0	1 ● 3		6	7	2

Bブロック

	あいの里	小樽	伊達	紋別	勝ち点	得失点差	順位
あいの里		4 〇 1	2 〇 1	5 〇 1	9	8	1
小樽	1 ● 4		1 〇 0	4 〇 1	6	1	2
伊達	1 ● 2	0 ● 1		0 ● 1	0	-3	4
紋別	1 ● 5	1 ● 4	1 〇 0		3	-6	3

Cブロック

	新篠津	函館	白樺	札高養	みなみの社	勝ち点	得失点差	順位
新篠津		4 〇 0	2 〇 0	3 〇 0	4 〇 0	12	13	1
函館	0 ● 4		1 ● 3	0 ● 6	0 ● 8	0	-20	5
白樺	0 ● 2	3 〇 1		1 ● 2	0 ● 4	3	-5	4
札高養	0 ● 3	6 〇 0	2 〇 1		4 〇 3	9	5	2
みなみの社	0 ● 4	8 〇 0	4 〇 0	3 ● 4		6	7	3



(記録 大会実行委員会 東海林)



東北地区

2022年8月27、28日 秋田県立中央公園トレーニングセンター

第1回全国特別支援学校フットサル大会東北大会 結果

優勝:秋田県立ゆり支援学校 全国大会出場

【星取表】

	秋田県立栗田支援学校	秋田県立ゆり支援学校	青森県立八戸高等支援学校	勝点	得点	失点	差	順位
秋田県立栗田支援学校		●0-6 ●1-4	○6-4 △5-5	4	12	19	-7	2
秋田県立ゆり支援学校	○6-0 ○4-1		○5-2 ○5-0	12	20	3	17	1
青森県立八戸高等支援学校	●4-6 △5-5	●2-5 ●0-5		1	11	21	-10	3

《第1ラウンド》8月27日(土) (10分-5分-10分)

開会式	10:00	全チーム参加						
試合時間	組合せ							
第1試合	11:00	1	秋田県立栗田支援学校	6	VS	4	青森県立八戸高等支援学校	3
第2試合	13:00	3	青森県立八戸高等支援学校	2	VS	5	秋田県立ゆり支援学校	2
第3試合	15:00	2	秋田県立ゆり支援学校	6	VS	0	秋田県立栗田支援学校	1

《第2ラウンド》8月28日(日) (10分-5分-10分)

試合時間	組合せ							
第1試合	9:00	第1R 1位	秋田県立ゆり支援学校	5	VS	0	青森県立八戸高等支援学校	第1R 3位
第2試合	11:00	第1R 3位	青森県立八戸高等支援学校	5	VS	5	秋田県立栗田支援学校	第1R 2位
第3試合	13:00	第1R 2位	秋田県立栗田支援学校	1	VS	4	秋田県立ゆり支援学校	第1R 1位
閉会式	14:00	全チーム参加						



東・西関東地区

2022年8月27日 東京都駒澤屋内競技場

第1回全国特別支援学校フットサル大会 関東予選

西関東ブロック 青峰学園 志村学園 羽村特別支援学校 日野中央特別支援学校

東関東ブロック 水戸高等特別支援学校 鹿島特別支援学校 流山高等学園 市原特別支援学校 つるまいの丘分校

4チーム総当たりとする。(勝ち点:勝利3、引き分け1、負け0)
※勝ち点が同一の場合、

①直接対決結果②得失点差③得点数④抽選の優先順位で決定

→4チーム中、1チームが全国大会出場

20分ハーフ

Aコート 15-3-15分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	①	10:20-11:00	青峰	志村	
	②	11:00-11:40	青峰	羽村	
	③	11:40-12:20	日野中央	青峰	

Bコート 15-3-15分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	⑦	10:20-11:00	羽村	日野中央	
	⑧	11:00-11:40	志村	日野中央	
	⑨	11:40-12:20	志村	羽村	

西関東	青峰	志村	羽村	日野中央	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
1	青峰	●3-5	●2-12	●2-6	0	0	3	0	7	23	-16	4
2	志村	○5-3	△2-2	○2-0	2	1	0	7	9	5	4	2
3	羽村	○12-2	△2-2	○6-0	2	1	0	7	19	4	15	1
4	日野中央	○6-2	●0-2	●0-5	1	0	2	3	6	9	-3	3

優勝した羽村特別支援学校が全国大会出場

Aコート 15-3-15分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	①	13:20-14:00	水戸	鹿島	
	②	14:00-14:40	水戸	流山	
	③	14:40-15:20	つるまい	水戸	

Bコート 15-3-15分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	⑦	13:20-14:00	流山	つるまい	
	⑧	14:00-14:40	鹿島	つるまい	
	⑨	14:40-15:20	鹿島	流山	

東関東	水戸	鹿島	流山	つるまい	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
1	水戸											
2	鹿島		●2-7	○6-4	1	0	1	3	8	11	-3	2
3	流山		○7-2	○7-1	2	0	0	6	14	3	11	1
4	つるまい		●4-6	●1-7	0	0	2	0	5	13	-8	3

優勝した流山高等学園が全国大会出場



北信越地区

2022年9月11日 石川県かほく市ジョイアクロス

第1回全国特別支援学校フットサル大会北信越大会 結果

	いしかわ	明和	富山	小松	勝	分	敗	勝点	得失点差	順位
石川県立 いしかわ特別支援学校	○	○	○	○	3	0	0	9	+11	1
石川県立 明和特別支援学校	●	○	○	○	2	0	1	6	+11	2
富山県立 富山高等支援学校	●	●	○	○	1	0	2	3	+1	3
石川県立 小松特別支援学校	●	●	●	○	0	0	3	0	-23	4



東海地区

2022年8月25日 愛知県知多市・オーシャンズフィールド

第1回特別支援学校フットサル大会 東海大会

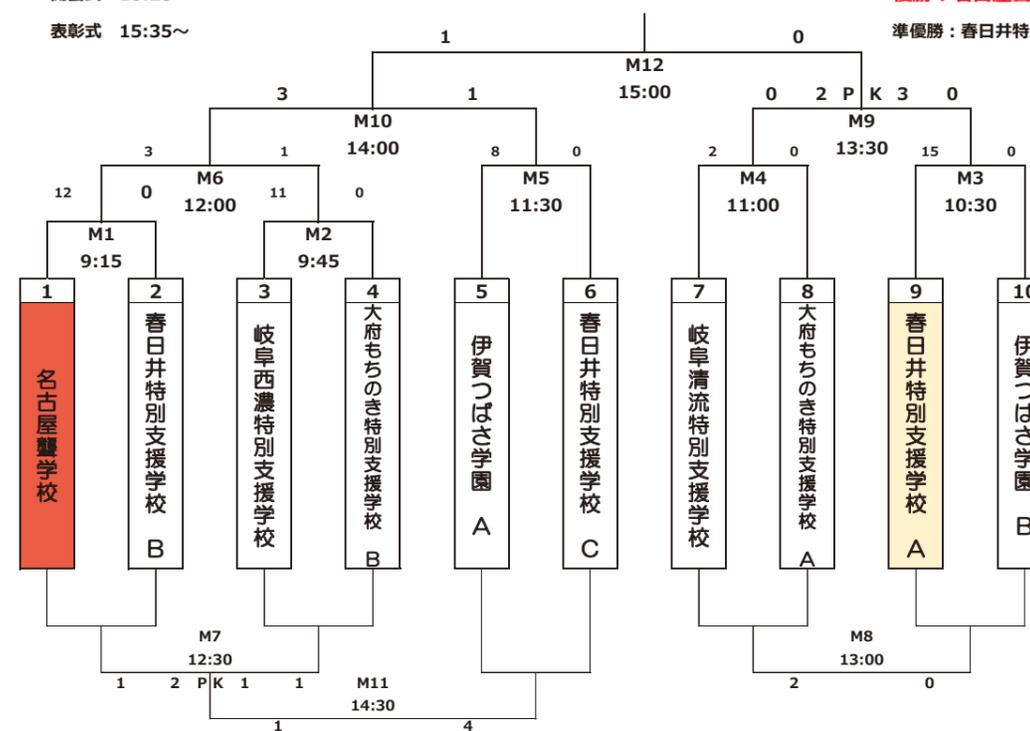
8月25日 (木)

開会式 10:20~

優勝:名古屋藍学校

表彰式 15:35~

準優勝:春日井特別支援学校A



四国地区

2022年7月10日 愛媛県東温市・ツインドーム重信

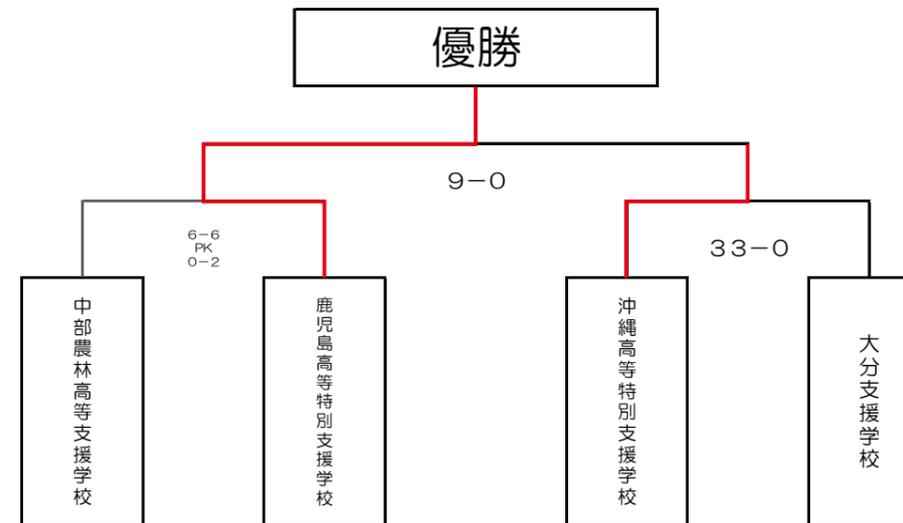
チーム名	香川	徳島	愛媛	勝点	得点	失点	得失点	順位
香川		4○1	3○1	6	7	2	5	1
徳島	1●4		5○4	3	6	8	-2	2
愛媛	1●3	4●5		0	5	8	-3	3

▼参加校
 香川県香川東部養護学校
 徳島県立みなと高等学園
 愛媛県立今治特別支援学校



九州地区

2022年9月11日 沖縄県・ZANPA SPORTS PARK



RESPECT の精神

第1回全国特別支援学校フットサル大会を終えて

副大会長 小野寺眞悟

(一財)日本ライオンズ副理事長

全国特別支援学校フットサル大会は、特別支援学校の生徒が卒業した後も、地域の中で円滑な就労による生活を送ることができるような強い体と他の人とのコミュニケーションを図る力を培うことを目的として創設しました。

このことを踏まえて、この第1回大会を振り返った時、一人一人の生徒の皆さんが真剣にボールを追いかけ、味方の選手に声かけして、得点を入れた時の喜びを分かち合い、負けた試合では仲間同士が慰めあう姿を目の当たりにして、本大会は成功したと確信することができました。

このように第1回大会が盛会裏に終わることができたのは、全国10地区の主管組織の皆様方が各地区で大会の理解啓発を行うとともに、各地区大会を円滑に実施して下さったことからの賜物であります。

また、全国特別支援学校市川裕二会長のご支援を早々と頂き、同時にスポーツ庁室伏広治長官の強い励ましもあったことが大会の円滑円満な開催につながったものと感謝申し上げます。

私たち日本ライオンズは、困難な状況などにある子供たちが、「夢」「希望」を失うことなく、日本の将来を担う高い志を持ち続けることができるような支援を続けてまいりますので、今後も皆様方からのより一層のご支援ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

札幌から福岡へ…

第2回全国特別支援学校 フットサル大会の開催の告知

- 1 主催 一般財団法人日本ライオンズ
- 2 後援予定 スポーツ庁 福岡県 福岡市 全国特別支援学校長会
- 3 各地区大会の日程
2023年6月～8月末までの間で、全国10地区において地区大会を開催する。
- 4 全国大会の日程
 - (1)開催期日 令和5年11月4日(土)
 - (2)会場 競技会場: アクション福岡
 - (3)日程 令和5年11月3日(金) 午後3時00分 開会式・抽選会
令和5年11月4日(土) 午前9時30分 全国大会
午後4時00分 表彰式・閉会式



鈴木重男大会事務局長から引き継ぎを受けるライオンズクラブ国際協会の池上信地区 GMTコーディネーター

一般財団法人日本ライオンズ主催 第2回全国特別支援学校フットサル大会
各地区大会の担当者一覧

北海道	小野寺眞悟 (331)	090-3390-1792 shirayama@asuka-gp.or.jp	鈴木重男 suzuki@kyoshinomichi.jp 090-7519-9503
東北	岸 秀年 (332)	090-2026-4448 kishi@camel.plala.or.jp	天本清隆 r-tohoku@jfa.or.jp 090-8259-9223
東関東 西関東	川島正行 (333) 桜井貴裕 伊賀保夫 (330)	090-3146-6190 lc.kawashima-@isshin.gr.jp	小澤通晴 ozawasoccer6397@gmail.com 090-9107-5005 木村純一 vamora6@yahoo.co.jp 080-5064-1648
		090-2521-4540 sakuraikogyo@kyp.biglobe.ne.jp 080-1105-5455 safari@capsule.co.jp	
北信越	橋本勝策 (334)	054-628-1606 shashimoto593@gmail.com	北信越 谷内浩仁 r-hokusinetu@jfa.or.jp 090-2123-6997
東海			東海 鈴木重男 suzukishigeo2265@outlook.jp 090-7519-9503
関西	松岡 勲 (335)	075-493-2675(自宅) matsuoka-isao@e-matsuoka.com	芥川豊和 T-AkutagawaT@medu.pref.osaka.jp 090-8532-1088
中四国	石原英司 (336)	090-5193-4858 ishiharalions@gmail.com	桂 秀樹 h.katsura@ipu-japan.ac.jp 080-2418-9071 菅 英希 elleair_320@yahoo.co.jp 090-5278-8194
九州	識名安信 (337)	090-3796-5403 lion.shikina@future.ocn.ne.jp	金城 充 mitsurugekidan@yahoo.co.jp 090-8291-0556 清末直樹(大分支援学校校長) kiyosue-naoki@oen.ed.jp 090-9496-2667

一般財団法人日本ライオンズ主催 第2回全国特別支援学校フットサル大会
各地区大会開催期日及び会場、連絡先一覧 (2023.3.31現在)

区分	開催期日	開催会場	開催主管組織及び連絡先等
北海道	7月28日(金)	道立野幌総合運動公園 総合体育館	公益財団法人小野寺パラスポーツ振興会 鈴木重男 090-7519-9503 suzuki@kyoshinomichi.jp
東北	9月2日(土) ～9月3日(日)	由利本荘総合防災公園 ナイスアリーナ	一般社団法人東北サッカー協会 天本清隆 090-8259-9223 r-tohoku@jfa.or.jp
東関東 西関東	8月下旬	未定	関東知的障がい者サッカー連盟 木村純一 080-5064-1648 vamora6@yahoo.co.jp
北信越	9月10日(日)	ジョイアクロス「アクロス館」 (アクロス高松)	一般社団法人北信越サッカー協会 谷内浩仁 090-2123-6997 r-hokusinetu@jfa.or.jp
東海	8月2日(水)	ゼットフットサルスポーツ 名古屋駅前	公益財団法人小野寺パラスポーツ振興会 鈴木重男 090-7519-9503
関西	8月4日(金)	大浜体育館 (大浜だいしんアリーナ)	関西知的障がい者サッカー連盟 芥川豊和 090-8532-1088 T-AkutagawaT@medu.pref.osaka.jp
中四国	8月27日(日)	IPU・環太平洋大学 第4体育館	創志学園環太平洋大学サッカー部 桂 秀樹 080-2418-9071 h.katsura@ipu-japan.ac.jp
九州	8月5日(土) 8月6日(日)	日出町大字藤原4627-1 速見フットサルコート	一般社団法人沖縄県障がい者サッカー連盟 金城 充 090-8291-0556 mitsurugekidan@yahoo.co.jp 大分県立大分支援学校 清末直樹 090-9496-2667 kiyosue-naoki@oen.ed.jp

発行日 2023年1月21日
発行者 一般財団法人日本ライオンズ
監 修 小野寺眞悟
編集・デザイン 木村健太郎
編集者 第1回全国特別支援学校フットサル大会編纂委員会
印 刷 中西印刷株式会社